

## 第1回山形県文化推進委員会における主な意見等

日時：平成30年9月18日（火）14:30～16:30

場所：山形県自治会館602会議室

協議テーマ：文化の推進に関する県の取組状況について

### 〈各委員の主な意見〉

- 文化を経済の活性化など様々な取組に活かしていく場合、事業の効果測定、成果の検証が必要である。文化の効果測定は非常に難しく、膨大な事業をすべて把握することはできないし、現場で検証することもできないが、設定しなければ実効性のない計画になってしまう懸念がある。
- 経済効果、特にインバウンドに関連するデータを示してもらったほうがいい。
- 県の取組で、私自身初めて知ったものもある。仕事で観光客等と話したりすると、県でたくさん取組をしているにも関わらず、知らなかったという話をよく聞く。充実した取組がたくさんある中で、発信という部分が少ないのかと感ずることがある。
- 出羽三山が日本遺産に登録された時、外国人観光客を招いての取組を短いバージョンで紹介している動画は、かなりの再生回数になっていると思う。インターネットの時代なので、興味ある方が検索した時に簡単に検索できて簡単に見るようなものが良いと思う。先日、出張で空港に行った際、若い外国人女性2人が、山形を1週間くらいで観光地や食文化にふれながら巡ると話していた。これもこうした取組の効果だと思うので、今まで興味をもっていた方はもちろん、これまで関心がなかったり、触れる機会がなかった方にも、ハードルを下げた形での発信方法があると非常にいいと思う。
- 文翔館を訪れる県内外、外国人の人数は年々増加し、非常に活気を呈している。また、文翔館を文化活動の場として利用する方も増加している。一方で、文翔館は外国人へのアピールが弱い。英語、韓国語、中国語等のパンフレットはあるが、館内の外国語表記が不足している。外国人から無料Wi-Fi設置への強い要望があり、文翔館でも導入しているが、全館に届かない。東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人の方がますます増えてくる。文化施設は観光施設でもあると思うので、県内文化施設全般にわたり、外国人に強いアピールができるような計画を練っていただきたい。

- 美術館や博物館における展示解説の英語表記は非常に難しい。しかし、外国人観光客は多くなっている。山形県にも日本固有の文化がたくさんあるのだから、工夫した見せ方があるのではないか。
- 基本的施策の「文化に親しむ環境づくり」のうち、鑑賞の機会の充実についてだが、鑑賞のための情報を得る方法は、年齢層によって違うと思う。新聞や広告などの紙媒体、テレビ、ラジオ、ホームページ、SNSなどのツールがある中で、SNSの活用が大きいのではないかと思う。私自身、新聞やテレビなど様々なものを活用しているが、特にSNSを活用した場合はイベント来場者数への効果が大きかった。新聞を読まない若年層からスマートフォンやパソコンを使う年配の方まで、幅広い層に届く媒体であるSNSで効果的に情報発信していくことで、鑑賞の機会を創出してほしいと思う。
- 「文化を育む人づくり」の担い手の育成については、山形には和紙や焼物など多くの伝統工芸がある。先日、山形鋳物の職人の方と話す機会があったが、原料価格の高騰や担い手がないことで力仕事が増え、数が出せないと話す方がいた。鋳物作りを学びたい、伝統を継ぎたいという人もいるので、そうした人がIターンやUターンで来てくれると地方が変わってくるのではないかと。具体的なサポート例としては、担い手の住居提供や、軌道に乗るまでのサポート、職人と担い手を行政がつなぐなどがある。文化は職人1人では作れないので、皆で守っていくような取組が重要と感じている。
- また、人づくりのうち、文化への理解を深めるという項目では、学校教育における美術の現状が気になる。県内で美術教員をしている同級生に話を聞くと、美術教員は学校に1人しかいないため相談したり協力しあったりする人がいない、中学校では、現在週1回年35時間しか美術教育がない、美術は受験やテストに必要なということで他の教科に比べて学校内でもあまり重要視されていないと話していた。授業も少なく、休日も部活動のため自由時間が少なく、どこで美術や文化と触れ合う時間があるのか、という話もあった。美術や文化への接点が少ないのは当然ではないかと思う。
- まちなかや、家の周りでの美術、芸術、ものづくりが増えていけば、子どもの頃から文化に触れることができる。感性を育むことの重要性は大きいのではと思う。今の教育は文部科学省の学習指導要領に則っているもので、内容を否定するのではないが、未来をつくる子どもへの教育がとても大切なことだと思っている。
- 山形のブランド力の向上については、山形にはたくさんの誇れるブランドがある。山形ドキュメンタリー映画際はアカデミー賞の公認映画際になっている。私自身まちの良さをブランディングしているが、大事なことはブランド自身を自分たちで理解し、愛していること。山形の素晴らしいものを県民がどのくらい知っているのか。舟形町の方は、町から出土した

国宝の土偶「縄文の女神」は知っているが、その他の国宝は山形に何点あり、何があるのか、ということを知っている人はいなかった。今、縄文は映画になるほど大きなブームになっており、国立博物館での縄文展、パリのジャポニズム2018でも縄文文化が発信されている。刀をモチーフにしたゲームとの連携企画展を実施した博物館では、若者の来場者が増加した。様々な方向から文化や歴史を学ぶ機会が大切で、好きな物や好きな事の力はとても大きいと思う。

- 外国人の観光客向けの表示の少なさは私も感じている。駅では、英語表記は駅名しかなく、ほかに英語や中国語で表記されているところはとても少ない。大きな市では多少英語を見かけるが、ほかの小さな町では外国語表記がとても少ない、更にWi-Fiを設置している施設はとても少ないと話す外国人もいた。インバウンド向けにもう少し表記を増やしていただければと思う。
- 現在、山形県総合文化芸術館という素晴らしい施設が建設中である。県民会館が素晴らしく立派なものに変わっていくことに対する期待感が強い。芸術的な環境を整えば、間違いなく進化するという具体例が県芸文美術館である。山形県芸文美術館は、アズ七日町に移転したことで約1万人来場者が増えた。状況や環境が良くなれば間違いなく進化・発達し、周囲の人の意識も変わってくると思う。そういった意味では、総合文化芸術館が、文化芸術団体が気軽に利用できるものになるのかどうかという不安があり、そのことを県にも伝えている。悪い方向にはいかないと思っている。
- 県民会館の企画事業として、東京の一流劇団等による村山地区の高校生を対象とした演劇教室が全国でも類をみないほど長い間続けられている。これが総合文化芸術館になっても続けられていくのかどうか。文化芸術団体の一番の喫緊の課題は次世代をどう育てていくかということである。若い人に文化芸術活動に取り組んでもらうことが困難な状況であり、各市町村芸術文化団体の中には、活動が停滞して厳しいところも出てきている。
- 今年、新庄まつりを見せてもらい、新庄という地域全体がまとまって取り組んでいるからこそ、あれだけの祭が行われ、ユネスコが認めてくれたのだということを実感した。外国から多くの方が来てくれることは良いが、地域で長く続いてきた芸術文化活動が姿を消すことになれば、由々しきこと。今後は、地域ぐるみで取り組んでいかないと、せっかく来ていただいた方に見ていただけるレベル、活動の展開が困難になりかねないと危機感を持っている。
- 県と連携して行っている「こども郷土芸能芸術まつり」で今年発表した、東根・山形を拠点として活動する中学生中心のストリートダンスのグループは、中学校から部活動として認めてもらい活動をしているグループだった。鶴岡市で開催した県民芸術祭の開幕式典では、鶴岡市芸術文化協会が高等学校文化連盟と話し合いをし、実力日本一の鶴岡北高等学校音楽

部から参加してもらったことになった。このようなことはあまりないこと。次世代の育成のためには、教育委員会との連携をさらに強めることが必要である。そうしていかないと、この計画の「推進」は難しいと思う。

- 箱物は、つくるのも大変だが、運営するほうがもっと大変だ。総合文化芸術館運営にあたっては、ぜひ知恵を集めて良い施設にしていきたい。
- シェルターなんようホールが開館したことで、これまで見るができなかった素晴らしいアーティストの演奏会を見る機会を得たが、そこで止まっている感じがしている。総合文化芸術館では、プロとのふれあいの企画など、若い人に還元できる取組が予定されているとのこと。とても魅力的だと思う。また、山形市内での企画事業が、他地域でも行われれば素敵だと思う。
- 工作上、様々な団体と関わっているが、一番の課題が会員の高齢化である。合唱や伝統芸能等の担い手がいない現状が課題だと思っていたが、そのありようは変わっているのではないか。文化活動が低迷しているわけではなく、今までのように大勢で何かをするという形が変わり、各人が個人で色々発信したり、地域に留まらず、国内外の人とつながっているのではないかと最近気づいたところ。今までの活動に若い人を巻き込むという活動も行っていかななくてはならないが、新しい活動をしている人に光を当て、認め、輪を広げていくということ、そういうことも経済活動につながっていくのではないかと思う。
- 米沢市でも今年、総合型文化クラブモデル事業を頑張っているところだが、手を上げる学校がなかなか無く、放課後児童クラブ単位で実施している。学校にある伝統楽器は指導者がおらず、埃をかぶっているとの話を校長先生から聞いたが、地元で一生懸命活動している人に、このモデル事業ということで関わっていただいている。子どもたちに伝統芸能に触れてもらうことはとても良いことだが、まだ特定の子どもたちに限られているので、教育委員会からもう少し受け入れてもらい、より多くの子どもたちに触れてもらえたらと思う。
- 計画にある「市町村との連携」は、アドバイスで終わるのか、予算が伴うのかなど、連携次第になるのかと思う。
- 美術教科がないがしろにされているという話が出たが、音楽もまさにそうで、芸術教科はなかなか学校の中で重視されない面があると思う。外国の美術館に行くと、先生に連れられた小さな子どもたちが、リュックを背負って絵の前に座り模写している。生活に密着した芸術活動を目にすると、うらやましいと思う。小さい頃から本物を見て、聞いて、シャワーのように浴びるということが芸術だけでなく、人間づくりに大きく影響し、様々なことが活性化していくのではないか。教育委員会とより一層連携していくことが必要だと思う。

- 観光面では、例えば沖縄を訪れると、すぐに琉球舞踊が見れるところに連れていかれたり、近場で地元の文化を体験できたりするということがある。山形には素晴らしい食文化等がある。ここに行けば山形の情報が全てわかり、そこから様々な場所へ行くことができるというような仕組みもあればいいと思う。国内、海外から人が訪れるオリンピックに向けて、もっと発信力をつける必要があると思う。
- 県民アンケート結果には、「活動した分野がひとつもない」、「鑑賞してみたいイベント、催事が開催される機会が少ない」など、対応を考えなければいけない結果が出ている。
- 郷土芸能等の発表の場の創出については、伝統文化の担い手や指導者の育成等の促進が、今後の施策の方向性として打ち出されており、これまでも文化振興プランに基づく取組として、「こども郷土芸能芸術まつり」への支援や、「日本一さくらんぼ祭り」で教育委員会が実施している「ふるさと芸能の集い」があるほか、古い「祈りと願い」を込めた郷土芸能については、将来の担い手となる子どもたちが、総合学習の時間やクラブ等で活動している。しかし、部活動として行われているものは山形にはなかなかない。
- 日本一さくらんぼ祭りの「ふるさと芸能の集い」は、七日町と十日町の路上で1日かけて行われているが、種類によっては路上の発表がふさわしくないものもある。
- 大人と子どもが一緒になった古い郷土の伝承文化、伝統芸能を県レベルで発表できる場がほしい。以前は県でやっていたが、中断して20年、30年経つ。総合文化芸術館の開館する今が復活するチャンスだと思う。来年山形を会場として開催する北海道・東北ブロック民俗芸能大会をきっかけとして、発表の場の創出、ふれあいの場が当然そこに出てくる。そういうことを今後検討していただければと思う。
- 最上地域では、最上で民俗芸能の団体が単独で発表を行う場合でも、お金を出し合っている。今年は文化庁の補助を受けて実施したが、全県的な子どもと大人の「祈りと願い」の発表の場の創出が出来たらいいと思う。委員会の検討の流れの中で遡上にのせていただければ有難い。
- 総合文化芸術館を拠点にしながらも、発表の場は地域を回るということもありうると思う。最上や庄内で行う場合は、その地域の団体が委員の主力メンバーになるなど、一極集中でなく行うことも十分考えられると思う。
- 施設を作るにしても、計画を作るにしても、これまでこうだったということは様々あると思うが、これからどうしたらいいのか、という未来志向を大事にしていくことが必要だと思う。
- 様々な展覧会を企画する立場からは、客が来ない、集まらないのは、発信できていないか

らと思ってしまうがちだが、そうではなく、市民の皆さんは非常に厳しい目を持っているからだと思う。自分が行きたいと思わない、きれいだと思わない、関心を引き立ててくれないものには行かない。企画する側は良いことだと思っても、受け手にとってそうでないものは、結局支持されずに消えていってしまう。

- 商業活動であれば、売れない商品は当たり前のように消えていくし、お客の入らない商店はつぶれていく。文化だからと言って、人に関心をもってもらえなくても、大事だからずっと続けるということでは、そうなる可能性があると思う。
- 発信が下手だという話も出ているが、今の若い世代が何を求めているのか、どういうことに心を動かされるのかということに対し、積極的に理解し知っていこうと努力していかないと、ずれたコミュニケーションのままになってしまうのではないかと思う。
- 若い世代にとって視覚体験が重要になっている。SNSもブログのように長い文章を読ませるものから、短文投稿サイトになっていき、今は写真共有アプリが非常に力を持っている。写真共有アプリでは、ほとんど文章は読まれず、1枚の写真で「ダサイ」「かっこいい」「これに行きたい」「無視していい」等、瞬時に視覚で判断されてしまう。そうになると、言葉でいくらこれは大事だと言っても、きちんと表現されていないと、スルーされてしまうことが出てくると思う。
- 山形ビエンナーレでも、ウェブサイトやポスター、パンフレットなどでは視覚に訴えることにこだわっている。表現したい文化は変えなくていいと思うが、人々に魅力や美しさを正しく伝える方法をしっかり作る必要があると思う。正しく伝われば、人は来てくれると思う。そのあたりのデザインの部分をきちっとしない限り、情報発信ができていないという課題は解決しないのではないかと思う。
- 総合文化芸術館についても、どこにでもある駅前文化ホールになるのではなく、地方都市における文化政策における先端的で実験的で効果的な事例として全国、世界から注目されるような施設にしていただきたい。文化に貢献された方を尊重することと同時に、新しい世代や海外の観光客の取り込みを含め、山形はそんなことをやれるんだなというところまでもっていけるといいのではないかと思う。総合文化芸術館が、SNSの発信もうまいし、デザインも非常に洗練されているし、サイン計画も非常に見事で、またバイリンガルもしっかりしている。案内するスタッフの協力も素晴らしく、制服や内装、椅子や家具ひとつとっても山形らしい洗練されたものになっている、ということが出来れば、それがひとつのレガシーになり、他の地域の施設にも良い影響を与えていくのではないかと思う。
- 様々なミッション、目的があると思うが、良いことがきちんと届くように、届け方を誰がどのように進めていくのか、検討し進めていただければと思う。
- 文化を経済の活性化、地域づくりなどに活用していくのであれば、成果をあげなければな

らない。成果をあげるには、数値をとる必要がある。

- 障がいを持っていない方でも、大勢の方が生きづらさや生活しづらさという困難を持ちながら生活している。仕事上、関係者に障がい理解を求めているが、直接触れ合っただき理解していただくのは、かなりハードルが高い時代になってきているのではないかと思う。
- 山形県では平成28年4月に「障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」が施行され、東北では2番目ぐらいに早いスピードで条例化されたが、差別を解消できている実感や出来事はなかなか少ないと思っている。仕事でも地域の方から理解を得るのはなかなか厳しく、条例が出来ても、理解が進んではいないのだと感じている。文化条例についても、プランを作成する際は、形骸化しないようにするにはどうすればいいかという視点を忘れずにしなければならないと思う。
- 3年前に、障がいを持った方の作品を展示する美術館を作った。明治初期の建物をリノベーションして新しく生まれ変わらせて開館した。その時のキーワードは、地域の中に出ていくための入口。美術館を一番喜んでくれたのは、町に住むお年寄りや子どもたちだった。一番嬉しかったのは、近所に住むお年寄りから、ここは昔遊び場だったとおっしゃっていただいたこと。その距離感で美術館を運営できる幸せをととても感じた。また、地元の子どもたちが学校帰りに気軽に寄ってくれ、美術の宿題をしたり、キュレーターと話をしながら夏休みの宿題をしたり、という関係性が生まれた。障がいの入口というところでは、私は美術館という形だったが、様々な入口を準備していくことが必要ではないかと思う。そういった意味で、文化条例の「まちづくり」「地域活性化」に文化も寄与していくべきで、それが地域で暮らしている方にとっても有益な活動だったり、資源だったりしなければならないと感じている。
- 障がいの条例に関し、最前線にいる民生委員の方が条例があることを知らないという意見をたくさん聞いた。今後、文化条例を進め、プランを作成していく上で、市町村の担当課、職員、関係者からきちんと理解していってもらう必要がある。まちづくりという視点では予算措置が必要になってくると思うが、例えば、県は他の関係課とどのように合意形成をとっていくのかなど、とても重要なことではないかと感じる。
- 障がい福祉で、山形県に来て驚いたことがある。山形市では100以上ある事業所が、他の市ではゼロという事業がある。この地域格差はどうして生まれるのか。条例をいち早くつくった山形県としては、県の立場として、地域格差の是正または県としての広域調整の機能を最大限に発揮していくことが文化にも求められているのではないかと感じる。
- 文化はきりがなく、お金も時間もかかる。少子高齢化や人口減少の中で風あたりは更にき

つくなってくると思う。それでも文化は推進しなければならない。

- 未来志向という話が出たが、これが答えになるだろう。真剣な議論が必要だと思う。